

令和3年度 学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検・評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

令和3年度 専門学校自己点検・評価項目	令和3年度 専門学校による自己点検・評価結果		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見	取組 評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目① 教育理念に、歯科衛生士としてのどのような資質を有しているべきかが明示されているか。	「社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自律する自主創造型歯科衛生士を養成しようとする精神」が本校の教育理念である。自主創造型歯科衛生士というのは、「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道を開く」能力を身に付けた歯科衛生士を意味し、高齢化の進展、医療の高度化・専門化等の環境の変化といった時代の変化に対応できる歯科衛生士としての資質を有すべきことを明示している。	A	教育理念はHP上に明示しており、学生、保護者、第三者も確認できる。系統立てて説明しており、歯科衛生士としてのどのような資質を有すべき事が理解できる。今後の社会環境・時代の変化に対応できる自主的創造型歯科衛生士の育成をお願いしたい。	実際に教育の目的、目的達成の為に教育のポリシーがわかりやすく明示してある。教育体系を全体、学年ごとに明記し、1年次より建学の精神や教育理念を学び、その心構えを元に、歯科衛生士として必要な基礎、教養を学ぶ。2年次、3年次は基礎・臨床歯科医学を臨床実習や臨地実地前に学ぶ。歯科衛生士に何が必要かを系統立てて学んでいることが理解できる。	建学の精神や教育理念は人生において大切な理念である。「自主創造型」の精神を確実に自分の物にする様に、サポートをお願いしたい。新型コロナウイルスの影響下での変化にも対応できる歯科衛生士の育成手段や方法の対応が大変だと思う。	特記事項無し。	A
評価項目② 講義内容は、歯科衛生士を育成するための教育内容として妥当性があるか。	本校では、全国歯科衛生士教育協会による「歯科衛生学教育コアカリキュラム」に従い、教育課程を編成している。具体的には、1年前学期から2年前学期では一般教養、基礎歯科医学、臨床歯科医学、および歯科衛生士の業務の基礎となる歯科診療補助論、歯科予防処置論、歯科保健指導論を配置し、2年後学期から3年前学期では、歯科臨床実習の他、幼稚園・小学校・障害者支援施設・老人保健施設等で臨地実習を実施する。そして3年後学期は、統合演習等で3年間学んだ知識・技術および体験学習等で学んだ経験値の融合を行う。以上の教育内容は、専門的知識・基礎的技術を修得し、社会貢献のできる豊かな感性を身につけた歯科衛生士を育成するものであり、本校の講義内容は、歯科衛生士を育成するための教育内容として妥当といえる。	A	講義内容は、全国歯科衛生士教育協会による「歯科衛生学教育コアカリキュラム」に従い、教育課程を構成、単位数はどれも上回る数で密度の濃い授業で編成されている。一般教養や基礎歯科医学、年度が進むにつれ必要な授業を段階的に取り入れて、無理のない様な教育となっている。3学年は自ら疑問に持ったことを研究する授業や発表の場があり、自主創造型歯科衛生士の精神を発揮する授業である。一般教養から歯科衛生士としての専門的知識・技術の修得、その修得した知識・技術を活用し、他の業種の方々達との連携で患者の口腔から健康維持を考え、なおかつ予防保健から社会貢献の実体験・経験をえられる教育内容は素晴らしい。今後とも続けていただきたい。	歯科衛生士教育は3年間と言う短い期間で学ばなければならない。3年間で自主創造型歯科衛生士のポリシーを基本に、教育が進められている。3年次の研究発表の授業は、学生同士や担任、副担任はもちろん、この3年間に自分達で構築した人間関係を全て使ってまとめ上げている。とても大切な授業である。臨地実習はコロナ禍であるために出向けないが、担当教員の創意工夫で昨年とは違った授業になっている。ビデオを見せるレポートやロールプレイを通して疑似体験をしている。	臨地実習はZoom等を使って、画面越しだが、人と関わることの大切さを体験してほしい。更なる新しい生活様式に対応した授業を希望する。新型コロナウイルスの影響下での歯科衛生士の育成手段や講義・実習方法の対応が大変だと思う。	特記事項無し。	A
評価項目③ 単位認定の評価については、学生に公表されており、公平性が保たれているか。	本校では学年進級制を敷いているため、単位認定は進級判定と不可分である。シラバスに定めた評価方法に基づき提出された各科目の最終成績から、全科目の平均点を算出することによって進級の可否が判断される。このシラバスはホームページを通じて学生・保証人が確認できるよう公開されている。成績評価方法及び成績評価基準は、学則と学修便覧に明示されているため、公正性・厳格性についても確保しているものである。	A	単位認定の評価はHP上に記載されていて、誰でも閲覧可能になっている。シラバスから成績評価方法も明示しているので、公平性が保たれている。保護者の方々や学生自身が自分の評価を確認・判断できる方法・基準が公開・明示されているのは公平性・厳格性が保てる方法だと思う。	シラバスは学生にとって、とても大事な内容。各学年ごとの講師から詳細に記載されているので、学生は迷わず、授業に進める。特に学生へのメッセージオフィスアワーは、担当講師がとても近い存在に感じた。講師のメールアドレスも公開され、質問の対応にもいつでも応じてくれる。コロナ禍で対面授業が不可能な時に心強いサポートになるだろう。成績の評価方法も明示されており、公平性が保たれている。	学生に授業の目的意識を持たせるためにもシラバスの重要性の周知をお願いしたい。新型コロナウイルスの影響下での歯科衛生士の育成手段や講義・実習方法の対応が大変だと思う。	特記事項無し。	A
評価項目④ 組織の構成及び教職員の任用は、教育理念を達成するために妥当であるか。	本校では、歯科衛生士学コアカリキュラムに従って授業科目に則した教員を配置している。各担当教員は松戸歯学部の講義・実習を担当している各講座の専任教員であり、本校の教育理念を理解してもらったうえで推挙されていることから、適切な教員組織が編成されているといえる。教員組織の方針に関しては、毎月学事委員会・教員会等の開催により教員間の連携・情報の共有しているほか、講師会・臨床実習指導者を開催して、学習指導・成績判定に関する方針の共有も行っている。以上のことから、本校における組織の構成及び教職員の任用は、教育理念を達成するために妥当であるといえる。	A	歯科衛生学教育コアカリキュラムに従い授業科目に則した教員の配置をとっている。附属校ならではの最大限に恩恵を受ける事ができている。衛生専門学校の組織体系は各学年の担任以外に松戸歯学部からの教授、准教授を含む専任講師を副担任とし、教育、生活をサポートする学事委員の構成になっている。メンバーは様々な年齢層から構成され、学生と近い年齢の委員もおり、相談しやすい環境を設けている。臨床実習の主任者、指導医、指導責任者も同様な構成だが、指導責任者は歯科衛生士と看護師が担って、適切な教員構成となっている。教員組織の連携や情報伝達は毎月の学事委員会・教育会の開催で共有されている。歯科衛生士は、時代や社会環境の変化によって知識・技術が更新改進される専門職であるので、各講座を担当している専任教員が授業・実習科目ごとに編成されている育成方針は素晴らしいと思う。	教育理念を達成するために、松戸歯学部より講師陣が副担任として構成されている。年齢の近い教員の選任も学生には勉学の相談はもちろん精神面でも良き相談相手となり心強いと感じた。継続をお願いしたい。	どのような状況であっても、学生が教育理念を身につけ、その心構えを元に、歯科衛生士としての知識を学び、入学から卒業まで、一人も欠ける事なく、巣立って行ってほしい。新型コロナウイルスの影響下での歯科衛生士の育成手段や講義・実習方法の対応が大変だと思う。	特記事項無し。	A